

項 目	所 見
教育総務課 ふるさとキャリア教育の推進	・ みさと学（ふるさとキャリア教育）においては、みさと学研究委員会が中心となって、活発に活動が行われた。また年度末、教職員対象の研修動画を作成し、全教職員配信することができた。また、児童生徒の学習成果についても動画により配信することができた。 ・ 学校・家庭・地域・産業等の関係者が連携した「ふるさとキャリア教育」の推進が図られてきた。ふるさとの良さを学びながら、ふるさとの愛着を持ち自身の夢をかなえていく児童・生徒の将来の姿を思い描きながら、長期的な視野に立ち取り組んでいきたい。 ・ 「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」への転換を更に意識しながら、学校・家庭・地域との連携と協働をさらに推進したい。 ・ R5には全地区に地域学校協働本部が発足するため、今後さらなる学校・家庭・地域、産業界、その他の関係者との連携に期待している。 ・ いよいよ本格的な取り組みがスタートしました。保幼小中高に系統化されたカリキュラムが作られ、地域学校協働本部とも連携した、町を挙げての「みさと学」になることを期待しています。 ・ 9年間の活動計画の作成により、計画通りにすすめられており「みさと学」に期待している。
学校教育の充実	・ 町単による講師、特別支援教育支援員、ALT、学校司書等の配置により、複式授業解消をはじめ、少人数学級の実現、1人1人の児童生徒に寄りそった丁寧できめ細かな指導が行われた。 ・ 町指定研究として、三珠地区では「ICT活用」、市川地区では「教科担任制」、市川南地区では「地域との連携」、六郷地区では「小中連携」の研究を推進し、その成果を全体で共有した。 ・ 「地域学校協働本部」を来年度、三珠・六郷地区に設置する準備が整った。これで4地区すべてに設置が完了することになる（市川・市川南地区には既設）。これにより地域学校協働活動が組織的に推進され、学校を核とした地域の活性化にもつながると思う。 ・ 児童・生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かな指導が、確かな学力の定着に繋がっていると思う。個々の習熟度や学習課題に応じた、指導形態・支援体制が可能となる町雇用の職員配置措置が手厚くされていることに感謝したい。 ・ いじめへの対応は、発生を未然に防ぐことが大切であり、各校とも教職員間での共通理解を図りながら丁寧な指導が行われてきている。いじめは絶対に許さないという、学校の姿勢を今後も常に持って指導にあたっていただきたい。

	・不登校児童・生徒への対応は、それぞれに抱える状況が多様なことから、家庭や関係機関との連携を図りながら、全教職員で課題を共有し指導にあたりたい。各校とも、個々に応じたきめ細かな対応がなされていると思う。 ・児童・生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導が確かな学力向上に繋がるものと考えます。管内の給食センターにおいて、安心安全な給食を手作りで提供してもらい感謝している。 ・学校訪問をはじめ日頃より、各校の環境整備や児童生徒、教育課題への現状や取組状況等の必要な内容を適切に把握し、学校との連携を密にしようとする姿勢を感じている。教職員にとっても学校教育充実にむけても大切な事だと思っている。 ・新型コロナウイルスの感染防止に注意しながら、児童生徒の安心安全を最優先にし、教育課程が最大限に実施されていると思う。
国際交流の推進	・今年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため姉妹都市であるマスカティーン市使節団の受け入れは中止となったが、その代わりに「ベルリギング・セレモニー」を行った。これは広島原爆記念日にあわせた催しで、オンラインにてマスカティーンの有志と本町の国際交流協会及び児童生徒有志とで平和を祈念して行ったものである。 ・国際交流協会の主催で、異文化交流として「韓国料理セミナー」「ALTを活用した英会話教室」「イングリッシュキャンプ」「外国語絵本の読み聞かせ（新規事業）」を実施した。 ・姉妹都市であるマスカティーン市との交流事業は、相互派遣交流として大きな成果をあげてきたと思う。より多くの子どもたちが異なる文化を理解し国際的な感覚を身につけるためには、インターネット等を活用し広く交流し合うことも意義あることだと思う。 ・コロナ感染症が緩和され、交流事業も実施出来ると思うので、国際交流の事業に期待している。 ・インターネット等による交流で、子供たちが身近に異文化を感じられることは良いと思う。

教育委員会及び事務局	・ 定例会教育委員会は諸課題の共有化を図り、真摯に論議し解決に向けて取り組んだ。 ・ 学校訪問や各種研修会を通して多くの情報や幅広い知識を得て、それを活かした適切な教育行政の推進に努めた。 ・ 事務局は学校等の諸施設の整備に努め、修繕についても年次計画に沿って着実に進めた。 ・ 児童・生徒の安全・安心な学校生活のため、緊急な修繕はもちろん年次計画による整備と充実を図っていききたい。今後も、現場からの要望に対して状況を迅速に把握し対応していただきたい。 ・ 定例会教育委員会では、現場の状況把握をはじめ諸課題などについて共有化が図られている。会議資料は事前配布され、会議の運営がスムーズに行われる一因となっている。事務局の対応に感謝する。 ・ 学校訪問で管内小中学校の実情を知ることが出来た。施設整備には、各学校の要望に迅速に対応している。 ・ 学校現場からの要望に対して、状況を迅速に把握し対応している。
生涯学習課 生涯学習・スポーツの推進	・ 新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、できうる範囲で効果的に諸活動が推進できた。 ・ 「ことばの森」「楽しい教室」など、子どもたちの言語能力の向上や健全育成のための充実した活動を展開できた。 ・ 図書館事業は、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を十分にとりながら、できる限りの事業を実施してきたと思う。図書の貸出し冊数も増え、ブックスタート事業・セカンドブック事業・図書の配本・朗読会や落語会など、子ども向けや大人向けの工夫された事業に取り組んで来たことを大いに評価したい。 ・ 公民館事業は、新型コロナウイルス感染症の拡大抑止のため多くの事業が中止された地区もあるが、工夫した対策を行いながら可能な限りの活動に取り組んできた地区の努力に感謝したい。 ・ 「二十歳の集い」行事が開催出来た事は良かった。コロナウイルス感染症5類移行後、各行事が今後開催されることを期待している。 ・ コロナの影響で多くの事業が中止になっているが、可能な限り開催出来た事業があって良かった。

文化・芸術の振興	・「大門碑林全国書道展（及び大山富士日中青少年書画展）」については、コロナ禍の中にあっても全国から 2,849 点の応募を得て、開催することができた。審査会の公開は控えたが、表彰式は前半、後半に分けて実施することができ、例年の開催に近づけた。 ・「三珠文珠県下書道展」は、コロナ禍のため、展示や表彰式を割愛することとなったが、無事開催することができた。 ・多くの文化芸能推進団体に支援・援助をしているが、後継者育成が課題である。 ・子どもたちの豊かな心を育てる活動や、町民の生き甲斐づくりのための支援を、補助金の交付も含め今後も継続したい。 ・感染症５類移行にともない、今年は文化・芸術の諸活動が計画通り出来ることを期待している。 ・書道文化の振興に努めており、書道展の開催は町民の生き甲斐や活動の場所となっていて良いと思う。
地域・伝統の継承	・みさと学（ふるさとキャリア教育）の推進に伴い、これまで以上に地域の産業や伝統、遺跡等に興味をもって学習するようになった。今後は、そこで学んだことを基盤として、自らを見つめ、自らの生き方を考える子どもたちの育成に力を注ぎたい。また、それを地域の伝統・文化の継承にもつなげていきたい。 ・和紙・花火・印章などの伝統産業を将来に継承していく事は、今に生きる私たちの責任であると思う。郷土の伝統産業に対して理解と興味を深めるために、更なる体験学習等の充実を図りたい。 ・神楽や史跡など無形・有形の文化財は、地域の歴史や先人の思いなどを知る貴重な財産であり、「ふるさと学習」の資料としても大いに活用できる。後世へ継承するための啓発活動や支援活動を継続していきたい。 ・伝統産業の継承と教育について、指導者、コーディネーターの高齢化が心配です。「みさと学」に期待している。 ・「みさと学」を通じて、各学校で和紙・花火・印章などの伝統産業を学んでおり、今後も継続して行ってほしいと思う。